

・九十九里地域 (43ページ)

九十九里平野には、広々とした水田がつづいています。

この地域には大きな川がないため、雨が少ない時には、水が不足して稲が育たずお米が穫れなくなってしまい、生活ができないくなる農家の人もいました。

そこで、利根川から九十九里平野に水を送る計画をたてました。1935（昭和10）年から1951（昭和26）年に大利根用水路工事が、1943（昭和18）

年から1965（昭和40）

年に両総用水路工事

が行われました。

大利根用水は、東

庄町の笹川から利根

川の水を取り入れて、

九十九里平野の北側

の水田をかんがいし

ています。



とうのしょうまち ささがわようすい きじょう
東庄町にある笹川揚水機場



かとり りょうそうだいいちようすい きじょう
香取市にある両総第一揚水機場

両総用水は、香取市の岩ヶ崎から利根川の水を取り入れて、九十九里平野の南側の水田をかんがいしています。

このように、2つの用水路工事によって、九十九里平野の農家の人は、安心して農業ができるようになりました。

• 北総台地 (43ページ)

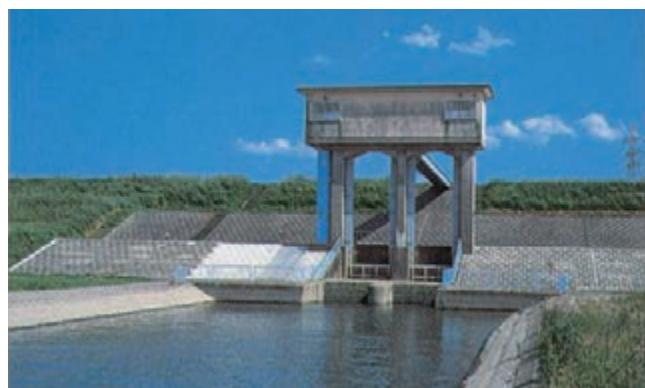
銚子から成田、千葉北部地域へとつながっている北総台地でも、農業用水はほとんど雨と湧き水にたよっていました。

このため、1970(昭和45)年に、利根川から北総台地に水を送る用水路工事がはじまりました。

水田や畠では、水が安心して使えるようになつたので、たくさんの方の野菜やくだものもつくられるようになってきました。



とうそう ようすい
東総用水のファームポンド
(水量調整用の小溜池)
すいりょうちょうせい
しゅうためいけ



なりた ようすいしゅすいこう しんかわ
成田用水取水口 (新川)



ほくそうとうぶ ようすい そうごうかんりしょ
北総東部用水の総合管理所

(4) 工場で使う水

わたしたちの身のまわりには、工場でつくられたものがたくさんあります。

1955（昭和30）年ごろから、東京湾に面した京葉地域に大きな工場がたくさんつくられ、多くの水を使うようになりました。

・工業用水（44ページ）

工場では、原料や製品をあらったり、冷やしたりするのに大量の水が使われています。

地域によっては、地下水を多く使うと地盤が沈下するおそれがあるので、千葉県では川や沼から水を取り、工場まで水を送る仕事を行っています。



さくらじょうすいじょう
佐倉浄水場（佐倉市）



こおり
郡ダム（君津市）



せいてつじょ
製鉄所のようす（JFEスチール）
ねつ てつ ひ ひょうめん
熱した鉄を冷やし、表面を
きれいにするために、たいへん
おね こうぎょう よう すい つか
多くの工業用水を使います。
てつ ふろ
鉄を1トンつくるのに、お風呂
はいぶん やく
377杯分（約113トン）の水が
ひつよう
必要です。